

# ケース・ブック

# 2017-2020

## 2018 年追加補遺版

2018 年 12 月 3 日発効

### 変更および追加の概要

2018 年 12 月 3 日、world sailing は以下に示すケース 132 の改訂版を公示した。この改訂は、同日発効となる。規則 18.1(a)と 42.3(c)に用いられている「風上に向かうビート」の解釈を述べている。この改訂は、2018 年に問題が沸き起こり、以前のケースでは危険な状態であったため、ケース・ブック 2018 補遺版の追加として公示されている。

注記：ケース・ブック 2019 補遺版は、2019 年の早いうちに公示されるであろう。そこには、World Sailing 年次総会で承認された新しいケースが盛り込まれるだろう。

# ケース 132

**規則 18.1 (a) マークルーム：規則 18 が適用される場合**

**規則 42.3 (c) 推進方法：例外**

「風上に向かうビート」の解釈

## 【質問 1】

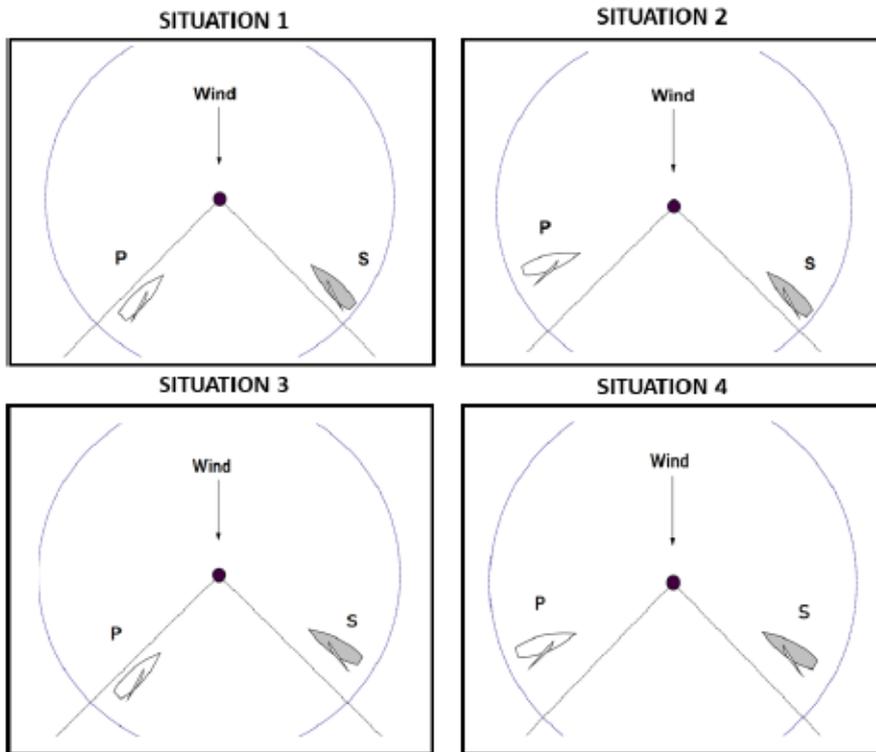
規則 18.1(a)には、規則 18 は風上に向かうビートで反対タックの艇間では適用されないと記載されている。規則 18.1(a)において、いつ「風上に向かうビート」なのか？

## 【回答 1】

規則 18.1(a)において、少なくとも 1 艇がゾーンにいる場合の複数の艇の状況が必要であるだけであり、反対タックの 2 艇では、次のいずれかの場合、「風上に向かうビート」であると考えられる。

- (1) 各艇のプロパー・コースがクロスホールドまたはそれ以上の場合
- (2) 1 艇または両艇がマークへのクロスホールドのレイラインを越えており、クロスホールド以下を帆走している場合

ポート側に見て通過するマークのゾーン内にいる、関係する反対タックの各艇の、以下 4 つの状況を考える。マークは風上マークか、フィニッシュ・ラインのポート側のフィニッシュ・マークか、風上のゲート・マークか、または回航マークでないリミット・マークとする。これらの状況において、示された艇は「風上に向かうビートで反対タック」であるため、これらの艇間には規則 18 は適用されない。



**【質問 2】**

規則 42.3(c)には、どのセールでもサーフィングまたはプレーニングが可能な場合 1 回の引込みは、風上に向かうビートを除いて許されると記載されている。規則 42.3(c)において、いつ艇が「風上に向かうビート」なのか？

**【回答 2】**

規則 42 はレースでの各艇を個別に扱う。規則 42.3(c)においては、他艇がない中で、その艇がコースを帆走し、できるだけ早くフィニッシュするであろうコースがクロスホールドまたはそれ以上の場合に限り、その艇は「風上に向かうビート」にある。